

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102055		
法人名	特定非営利活動法人 夢のかけはし		
事業所名	グループホーム とみのくに グループホーム I		
所在地	奈良県奈良市中町3857		
自己評価作成日	令和2年7月14日	評価結果市町村受理日	令和2年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カオア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和2年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神社やバラ園、森や川に隣接した1500坪の恵まれた環境の中で、入所されている方々は職員と共に穏やかな日々を送ってられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで自然豊かな環境の下にあり、隣接する神社や寺等の行事やバラ園を眺めることができ、敷地内を散策したりできるスペースもあり、家庭菜園なども行われています。季節の移り変わりを身近に感じながら、それぞれの入居者が明るく穏やかな表情で、ゆったりと過ごしています。職員のやさしい言葉かけや笑顔の表情、対応の姿勢や態度から、尊厳を大切にされている様子が伺えました。併設するデイサービスとの交流も盛んで、行事や慰問などへ一緒に参加したり、施設の行事「とみのくに祭り」を開催し、地域の方と日常的にふれあいが持てる機会を作られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を併用スペースとスタッフルームに掲示、また、いつでも誰もが閲覧出来るようにし、施設一員として福祉の増進に日々取り組んでいる。	法人理念を玄関に掲示され、「ここで過ごせてよかった」と思っていただけよう、日々職員間で理念を共有しながら、人格・尊厳を守ることを意識し、その人らしい生活ができるよう支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや学校行事などに参加している。	事業所主催で祭りを開催し、地域の子供たちや高齢者と一緒に行われる催しが行われています。ホームに小学生の絵画や書道展示をする等、日々のふれあいを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験などを通じ行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、行政にも報告を行っている。	2か月に1回開催し、民生委員や地域包括職員の方が参加され、活動報告やホームの現状を話され、意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政ならびに包括支援センターと情報交換を行い、協力関係を築いている。	祭りの開催時に、相談コーナーを設けるなど、市の担当者と協力関係が築かれており、日頃からの連絡・連携ができる体制が整えられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの設置を行い、また玄関の施錠は基本的に行っていない。	身体拘束についての研修を行い、拘束をしないケアに努められ、尊厳を大切にされた言葉かけが全体を通して見受けられます。ホーム内の庭を散策するなど、自由に入出りができるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	平成24年度奈良県高齢者虐待防止研修会参加。職員同士が虐待について疑問に思うことは常に管理者へ報告し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会に参加し、必要に応じて成年後見制度の活用を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結以前に施設見学していただき、疑問点等を十分に解決した上で契約を行っている。また、解約時においては、利用者様の今後の生活等を十分に考慮し、アドバイスを行った上で、契約解除を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等があった場合は速やかに対処し、ご家族とも連携を取りながら解決出来るような体制をとっている。	家族への便りの中に、写真や本人からの手紙等を添えられ、近況を報告されています。ホームの生活が分かりやすく伝えられており、生活に対する意見や要望を聞き出せる環境づくりに配慮しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と常にコミュニケーションをはかり、随時行っている。	会議や日々のミーティングの中から職員からの提案を聞く機会を設けています。必要であれば、職員と個別面談を行い、より意見を出しやすい環境に配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適正に職員を評価し、給与のベースアップや業務の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、認知症介護実務者研修、管理者研修等を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、同業他社との食事会や施設訪問を行い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた後、本人と面談を通して行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた後、家族様と面談を通して行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用に限らず、総合的に見極めアドバイスを行っている。事実、グループホームへの入所相談に来られたが、現在はデイサービスを利用されている方もいらっしゃる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力の不足分をお手伝いさせて頂きながら、ご本人の残存能力を十分に引き出しながら、人生の先輩から学ぶ姿勢で生活を共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に一度家族会を開催に、また面会時や電話、文書で近況報告を行い、日々の変化を共有し、ご家族から本人へ励ましや喜びの声かけをして頂き、職員と家族で支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、知人等の面会が気兼ねなく出来る環境作りを心がけ、自宅や知人宅への外出もご家族の理解と協力を得ながら支援している。	家族や知人等が気兼ねなく訪問し、くつろいでいただけるように配慮し、関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくリビングで過ごして頂くことで、利用者同士が共同作業やコミュニケーションをスムーズに行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされている利用者やご家族があれば、いつでも対応出来る体制をとっており、退所時にはその旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握した上で、施設サービス計画書を作成し、ご家族にも同意を得ている。	入居時に本人や家族から、意向や希望を聞かれています。日々の関わりの中から、声掛けを行い、表情や行動から以降の把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族との聞き取り調査を行い、フェイスシートにより行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フェイスシートの内容を把握した上で、実際にケアを行うことにより把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、利用者やご家族、職員とコミュニケーションを図り、実情に即した介護計画を作成している。	本人の言動や家族からの情報を基にアセスメントを行い、管理者や職員の意見を会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに、特記事項については申し送りを確実にし、情報を共有している。また、心身の変化、ケアの実践に基づく結果を介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	さまざまなニーズに対応出来るよう、自社や他の事業所と連携をはかり、支援できる体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特に教育機関(幼稚園・小学校・中学校)と協力し、運動会への参加、職業体験等を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月2回の往診、歯科医による月1回の往診の実施。以外にご家族との連携により支援を行っている。	定期的に医師が往診するほか、入居者の希望に応じてかかりたい医療機関への受診も、ご家族の協力を得ながら支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の状態の変化について相談し、支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携の医療機関は勿論、提携を行っていない医療機関でも医療連携室や担当医等と連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『看取りの指針』について説明を行い、ご家族の意向を把握している。また、終末期の対応については、ご家族様、職員が方針を共有している。	入居前に終末期に向けた意向の確認を行い、状態に応じて、家族の意向を確認しながら、ターミナルケアを実施しています。入居者にとって終の棲家になるよう支援体制を築いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置を行い、また消防署の協力で講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署への自動火災通報装置の設置、非常時の近隣の方々から協力していただけるよう了承済み。	年二回の避難訓練を計画し、実施しています。入居者や地域住民のための、水や食料等の備蓄の整備を進められています。	避難場所や避難経路等をより明確に職員間で共有され、地域との連携が図れるような訓練計画や仕組み作りを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを大切にし、個人情報についてはスタッフルームで管理し、職員についても守秘義務等の徹底を図っている。	一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切するという目標を掲げ、日々実践されています。職員の言葉かけ等から、個人を尊重した関わり方への配慮が様子からも窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や表情を観察し、本人がどうしたいのかを探り、出来るだけ本人に選択できる場面を作りながら、本人が意思決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者をよく観察し、本人のニーズを引き出し、柔軟に対応出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、本人の習慣や嗜好を考慮し、支援している。理美容については本人が望めばご家族にも支援して頂きながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来ることを見極め、食事の準備や片付けを行っている。また、以前使用されていた食器類等を持参頂いたり、本人が使いやすい食器を使用している。また食事時のBGMなど環境にも考慮している。	食事は担当職員が、業者か納入する調理できている食材を加熱や盛り付けを行い提供しています。楽しむ機会として、誕生日の日にリクエストを聞いたり、畑で作った野菜等を献立の一品に取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、必要に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアを行っている。また歯科医とも連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録から個人の排泄パターンを理解し、プライバシーに配慮しながらトイレへの声掛け、誘導を行うとともに出来るだけ自分で出来るよう支援している。また、パットの使用等は最小限に抑え、布パンツの使用など気持ちよく過ごせるよう支援している。	排泄チェック表にて、入居者の排泄パターンを理解し、個々に合わせた誘導を心がけています。必要な方にはポータブルトイレを使用する等、状態に応じたケアに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の周期を記録し、必要に応じて飲食物やマッサージ等予防し、場合によっては医師や看護師と連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の本人の心身の状態を総合的に判断し、入浴の意義を十分理解した上で支援している。	週二回の入浴を基本とし、浴槽への移動が難しくなっている方へは、二人介助を行うなど、職員の配置に配慮しながら進めています。機械浴が必要な場合は、同建物内の通所施設の浴室を利用できる体制を築いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを把握し、日中の過ごし方などを検討しながら、安心して就寝出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のある方については、薬局からの薬の説明書にて理解しており、服薬の支援を行うとともに、状態によっては医師に確認をとり指示を仰ぎ、服薬の内容を調節している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人にあった役割や、本人の嗜好などを日々のケアの中から見出し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩等は勿論、ドライブや買い物、観光などを行っている。また、個人的な場所についてはご家族の協力を得られるよう支援している。	自然が豊かな場所にホームがあり、季節を感じながら、庭を散策したり、菜園で野菜を収穫したりするなど、日常的に外気に触れる機会を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で金銭の管理を行っているが、個人の能力に応じ、お金あるいは他に代わるものを管理、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第一に考え、安心して利用いただけるよう工夫している。また季節を感じられるよう花や行事的なものも飾るようにしている。	入居者の季節感のある作品が壁にかけられ、広い空間があり、ゆったりとソファがおかれていました。リビングで職員と一緒に洗濯物を畳んだりするなど、日常的に行っている様子が見え、生活感を出しながらも、清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分な座席数を確保しており、利用者が自分の意思で座る場所を決められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がより安心して生活していただけるよう、ご家族等と相談しながら、家具や写真等を持ってきて頂き空間の演出を行っている。	絵手紙で作られた表札を掲げたり、居室には、使い慣れたタンスや家族の写真、趣味のもの等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の設置は勿論、表示の仕方など工夫している。介助しすぎず個人の能力を引き出すアプローチの仕方を意識しながら介助を行っている。		